

平成 22 年 5 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社オーエム製作所
代 表 者 取締役社長 山村 英司
(コード番号 6213 東証・大証一部)
問合せ先 経営企画管理部長
佐脇 祐二
(TEL 06-6350-1200)

(AGGRESSIVE-21IV)
第 4 次中期経営計画について

株式会社オーエム製作所は、2010 年 4 月から 2013 年 3 月までの 3 ヶ年の第 4 次中期経営計画(AGGRESSIVE-21IV)を策定いたしましたのでお知らせいたします。

I. 中期経営計画の策定にあたり

当社グループの属する機械業界の経営環境は、海外の需要は戻りつつありますが、内需は依然、設備投資意欲は低く、受注環境は厳しい状況が続いております。そのような環境の中で、当社は本中期計画を進めるにあたり、内製化の推進、グループ企業の統合、固定費の削減など、この厳しい局面に立ち向かうべく事業構造の改善にいち早く取り組みを進めており、本中期計画を確実に実践することにより、企業価値の持続的向上並びに株主への利益還元に取り組んでまいります。

II. 経営理念

私たちは生産設備と技術サービスの提供を通じて顧客・社会に貢献できる企業を目指します。

III. 中期計画ビジョン

- 海外での事業（調達・生産・販売）を推進し、グローバル市場で勝ち抜く
- 「モノづくり力」を磨き、高品質な製品を提供し、企業価値の向上を目指す
- コンプライアンス重視の経営

IV. 最終年度目標（2013 年 3 月期）

- 連結売上高 150 億円
- 連結営業利益 27 億円（連結営業利益率 18%）

V. 経営施策

□海外展開の推進

- ・海外生産、海外調達を推進し中国及び周辺国で生産拠点の立上げを目指す
- ・海外売上高 最終年度 連結売上高の30%を目標とする。
中国、韓国、インドを初めとするアジア地域の成長新興国がターゲット
機能を絞った汎用機や、原子力関連、インフラ関連向けに超大型立旋盤を拡販

□営業戦略

- ・ユーザーのグローバル化に対応する海外販売の推進
- ・ラインエンジニアリングを提案しライン受注の拡大／提案型営業の推進

□製品開発の強化

- ・立旋盤のトップメーカーとして入門機から超大型立旋盤までフルライン化
- ・新規マーケット（成長分野、海外市場）へ対応する製品開発の推進

□モノづくり力の強化

- ・品質第一主義
- ・技術・技能の伝承推進

□コンプライアンス重視の企業活動

- ・内部統制制度を実践し、社員一人一人へ意識付ける

VI. 経営目標数値

第3次中期経営計画（2007年4月～2010年3月）は、重厚長大産業からの旺盛な設備投資需要により増収増益となり、2009年3月期は連結売上高170億円、営業利益39億円で中期計画の当初目標を達成。最終年度は世界的な景気後退により、設備投資が大きく落込み減収減益となる。

□第4次中期経営計画 経営目標数値

初年度は設備投資意欲が本格的な回復には至らず、減収減益の見込。
2012年3月期以降からの成長に向け、海外展開の推進、製品開発、品質向上など取組強化。

（単位：百万円）

	連 結			
	2010年3月期 （実績）	2011年3月期 （計画）	2012年3月期 （計画）	2013年3月期 （計画）
売上高	11,547	9,000	12,000	15,000
営業利益	2,115	1,170	1,800	2,700
経常利益	2,141	1,140	1,770	2,670
当期純利益	1,068	670	1,040	1,570

VII. 株主への還元方針 連結配当性向 30%目標

□株主還元を重視し連結配当性向25%目処に30%を目標といたします。

以上

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。